

速記録（平成十一年一月二十九日 第二九回口頭弁論）

事件番号

平成四年ワ第二〇七五号・平成五年ワ第二二二五号・平成六年ワ第二三〇八号

本人氏名 金 ■ 錫

原告ら代理人（池上）

甲B第四二号証を示す

調査表ですが、これは一九九七年の一月の一日にあなたのお話を聞いて代筆してもらって作ったものですね。

はい、そうです。

代筆をしてもらった人は金甲用さんですか。

はい、そうです。

金甲用さんは永同新聞の新聞記者ですか。

はい、そうです。

あなたが日本に来ることになったのは、軍属としての徴用令状を受け取ったからですね。

はい、そうです。

令状を受け取ったのは一九四三年の五月ですか。

はい、そうです。

徴用令状の内容はどういうものだったか、簡単に説明してもらえますか。

海軍軍属を命ずるというものでした。

期間は定まっていたか。

はい、六箇月でした。

韓国人で徴用令状を受け取った中では、受け取った順番は早いほうでしたか。

はい、そうです。一番最初でした。

期間は六箇月と定まっていたということですが、実際には六箇月が過ぎると、延長、延長と延長されていたわけですね。

六箇月でしたが、延長して一年になりました。

徴用令状を受け取ったときのあなたの生活について聞きますけれども、結婚をして三歳になる娘さんが一人いらっしゃるわけですね。

はい、そうです。

仕事は農業をして暮らしていたということですか。

はい、そうです。

あなたが徴用令状を受け取ったとき、家族の人たちは悲しみましたか。

はい。言葉では言い表せないです。

あなた自身はどういうお気持ちでしたか。

行かなければいけないと思いました。

徴用令状を受け取って、徴用に行くことを拒否することはできないんですか。

令状をもらいましたので、軍人だから行かなければいけないことです。

徴用を拒否すると警察に捕まって牢屋に入れられたりするんですか。

はい、そうです。

あなたには兄弟がいらっしゃいますね。

はい、いました。

上に三人のお兄さんと、下に弟さんと妹さんがお一人ずついらっしゃいましたね。

はい、そうです。

兄弟の方も戦争に行ってるんですか。

すぐ上の兄です。

三番目の兄弟ですね、三男のお兄さんが戦争に行ってるんですね。

そうです。

弟さんも戦争に行ってるんじゃないですか。

はい、そうです。

お兄さんと弟さんは戦争に行っただうなりましたか。

戦死しました。

お二人とも。

そうです。

すぐ上のお兄さんはサハリンで、弟さんは中国で戦死したということ間違いないですか。

はい、そうです。

日本軍で闘って戦死したんですね。

そうです。

それで、あなたは徴用令状を受け取ってから、まず最初に永同に集合させられましたね。

はい、そうです。

永同には何人ぐらいの人が集まっていましたか。

一〇〇人ぐらいです。

どこから集まって来たか分かりますか。

各面から一〇人ずつ集まって一〇〇人でした。

永同郡の各面から一〇人ずつ集められたということですね。

はい、そうです。

永同から次に釜山に移動しますね。

はい、そうです。

釜山では何人ぐらい集まっていたか分かりますか。

はっきりは分からないんですが、一〇〇〇人ぐらい集まったと思います。

一〇〇〇人ぐらい集まった方というのはどこから集められた方ですか。

忠清北海道から集まったと思います。

忠清北海道から集まった方だけで一〇〇〇人ぐらいいたということですね。

はい、そうです。

あなたは最終的には青森県に行っているわけですけど、忠清北海道から集まった一〇〇〇人のうち、何人ぐらいが青森県に行ったか分かりますか。

忠清北海道からの一〇〇〇人が全部青森に行きました。

もう一回聞きます。釜山に集まった一〇〇〇人のうち青森に行った人は三〇〇人ぐらいではなかったですか。

一〇〇〇人が青森に行って、三沢のほうに行ったのは三〇〇人です。

あなたが配属された軍隊はどういう軍隊でしたか。

青森の一三大隊一三中隊一三小隊一三分隊にいました。

大湊海軍じゃないですか、青森の。

はい、そうです。大湊海軍一三大隊一三中隊一三小隊一三分隊です。

身分は軍属ですね。

はい。

青森県の三沢で、飛行場を建設する仕事をさせられたんですね。

はい、そうです。

それでは三沢での生活について聞きますけれども、まず仕事は何時ごろから何時ごろまでしていましたか。

朝七時から午後の七時まで仕事をしました。

仕事の内容はどういう仕事でしたか。

そのとき三沢の空港がまだ完成してなくて、自分たちが行ってその空港の滑走路を作って、それからその地下を掘ってそこに飛行機の部品を作るような工場を造りました。

労働者を監督していたのは日本人の兵隊ですか。

はい、そうです。

食事はどういったものを食べていましたか。

最初、お米と小麦粉、それと南京とかを食べていました。

食事は十分あって、おなかが一杯になりましたか。

いえ、足りなくておなかがすいて、畑でさつまいもとかを掘って食べ

て日本人から殴られたりもしました。

おなががすいて働けない人もいたんですか。

おなががすいて、昼になるまでにもたなくて、そこに倒れたりすると
仮病だと言って殴られたりとかもしました。

先ほど聞き忘れたんですけれども、休みの日はあったんですか。

日曜日、ありました。

月曜から土曜までは毎日一二時間労働で、日曜日だけが休みだったということ
ですね。

はい、そうです。

給料は受け取っていましたか。

はい、もらいました。六〇円でした。それでそのうちの二〇円は貯金
してもらおう、というか、貯金を無理やりさせられて、あとの四〇円く
らいは、二日でたばこ一箱、それと食事代を引いて、残りはもらいま
した。

手元に残るのは幾らぐらいになるんですか。

はつきり覚えていません。

六〇円と言ったのは月給が六〇円ですね。

はい、そうです。

二〇円は強制的に貯蓄するようにさせられたということですから、それは韓国に帰るときに貯金を受け取ってますか。

それはもらえませんでした。それは貯金通帳さえ見ることができませんでした。自分が帰ることになったときは、もう上の人は一人もいなくなっていました。

労働で体を壊した人もいたんですか。

地下室を掘る途中に崩れて来て、足とかけがした人もいるし、そういう体を壊す人もいました。仕事ができない状態になるともう韓国に帰したこともありました。

三沢でそのまま亡くなった人もいますか。

はい、います。

次は浮島丸に乗るまでの話についてお聞きします。まず戦争が終わったのは八

月の一五日ですけれども、戦争が終わったということは、いつ、どうやって知りましたか。

一四日に、あしたは仕事に行かなくてもいいと言われてまして、あしたの午後一二時には天皇からいい話があると言われてました。

仕事に行かなくていいというのはだれから言われたんですか。

監督さんに言われました。

それで一五日にラジオで天皇の放送を聞いたんですね。

はい、そうです。

戦争が終わったということとは分かりましたか。

はい、分かりました。

ラジオを聞いてからあとはどうになりましたか。

仕事をしないでずっと遊びました。

労働を監督していた日本人の兵隊はどうになりましたか。

その昼まではいたんですが、次の日の朝になると一人もいなくなりました。

その昼というのは一五日の昼ですか。

はい。

その後はそうすると韓国人同士で自活をしていたということですか。

はい、自活でした。それから全然知らない日本の兵隊さんが来て、お米を配ったりして、自分たちで食事を作ったりしました。前いた人はもう一人もいなくなりました。

浮島丸に乗るということはだれから言われましたか。

一週間はそのままいたんですが、二三日になってトラックがいて、船に乗るから全部乗ってください、と言われました。

船に乗ってくださいとあなた方に言ったのは日本人の兵隊ですか。

日本の軍人でした。

以前、あなた方を監督していた軍人とは別の軍人ですか。

はい、違いました。

トラックに乗るときは、船の行き先についてはどういう説明を受けていましたか。

トラックから降りるときに青森の港だと分かりました。

船の行き先については韓国に行くんだという説明は受けてませんか。

その港に着いたときに、この船は韓国に行くからという説明がありました。そのまま乗りました。

その説明はだれから受けたんですか。

軍属でも韓国の偉いさんから。偉いさんもその上から聞いて来て自分たちに言いました。

まず、あなたが直接聞いたのは同じ韓国人の仲間からということですか。

はい、そうです。

その人は何か偉い地位についていたんですか。

その自分たちがいた一〇〇人いたところの一番偉い韓国人から聞きました。

地位は分かれますか、中隊長とか大隊長とか。

小隊長でした。

小隊長はあなたが小隊長ですか。

話をしてくれる人は小隊長でした。

その小隊長の韓国人の人もその上の人から聞いたということだったんですね。

その小隊長はその船に乗せてくれる人たちに聞いて自分たちに言ってくれました。

浮島丸に何人ぐらい乗ったかということは分かりますか。

自分たちが一番最後に乗ったのは一番上の甲板のほうで、そのときに自分たちはご飯も食べなかったんです。それで乗った時間は七時か八時くらいでした。

何人くらいその船に乗ったかということは聞いていますか。

七〇〇〇人くらい乗っていると聞いていました。

船の定員が何人かということは聞いていますか。

ある人から聞いたんですが、六〇〇〇人乗るところを七〇〇〇人乗ったから、ある人はもう降りました、その場で。そのときに自分たちの故郷、永同から来た人一〇〇人も降りようとなりました。乗ったからもう大丈夫、一〇〇〇人くらいは大丈夫だよと言われました。自分たちが

乗ったあとにはもうほかの人は乗って来ませんでした。で、自分たちは甲板の上で、もう人が一杯で立っていました。

ちょっと確認したいんですけれども、六〇〇〇人くらい乗るところを七〇〇〇人乗せたという話はだれから聞いたんですか、分かりますか。

自分たちは分からなかったんですが、自分たちの小隊長がもっと上の人から聞いて、その小隊長が下の人に言って自分たちに聞かされました。

船に乗るときに行き先が韓国であるということを見せてくれた韓国人の小隊長ですね、その人は。

はい、そうです。あの船に乗った人は全部その人から聞きました。

それで実際にいったん乗船して降りた人も何人かいたわけですか。

一人の人が、韓国の軍人がおりました。その人は家族を連れて降りしました。

あなたは一番最後に乗船して甲板の上で立っていたということですけど、船の中のほう、客室とか船倉の下のほうはどうなっているか分かりましたか。

雨が降ってましたので、下のほうに降りようとして下を見たら人が大勢いました。一人で降りてみました。

船の中のほうに降りて、中を確認したことがあるんですか。

人が一杯いて、下まで降りて確認することはできませんでした。

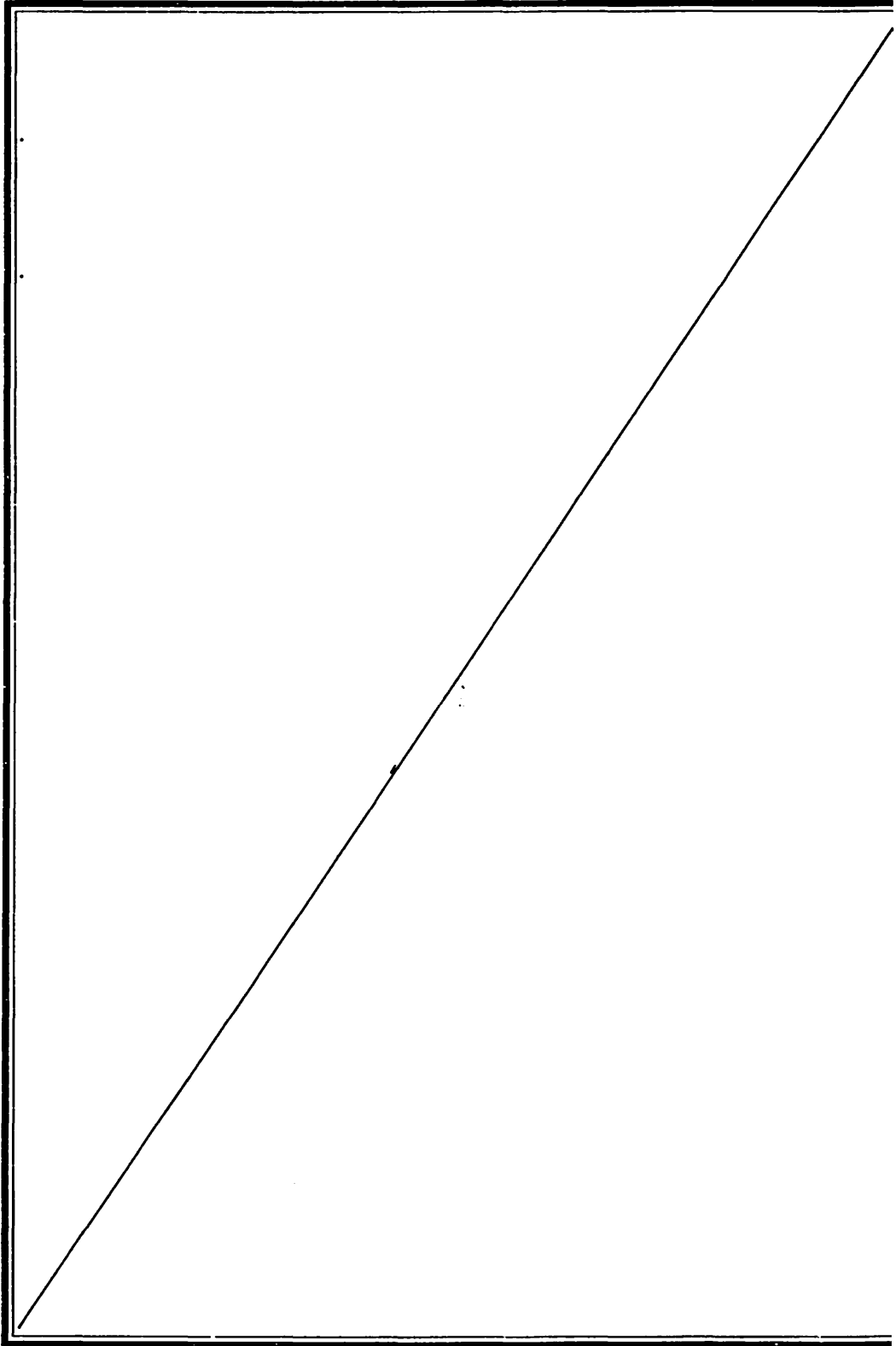
結局、浮島丸が沈むまでずっと甲板にいたということではないんですね。

はい、そうでした。釜山に行くまでもうそこにいなければいけませんでした。

今、釜山とおっしゃったけれども、韓国の行き先が釜山であるということは分かっていたんですか。

はい、そうです。乗るときにもう分かりました。それは乗ってもう二日もすれば釜山に着くという放送もありました。

(以上 中島ケイ)



原告ら代理人（池上）

浮島丸に乗ってから後のことをお聞きします。浮島丸が出航したのは何時ごろだったか覚えていますか。

はっきりは分からないんですが、夜の九時か一〇時ごろだったと思います。

出航してから、夜の間は特に変わったことはなかったんですね。

出航してからは、何事もなかったんです。

一晩明けてから、朝になってから、変わったことを見たり聞いたりしましたか。

ありませんでした。朝は、おにぎりとかをもらって食べていました。

日本軍の軍人さんたちがお酒を飲んでる光景というのを見ましたか。

次の日の、お昼の二時か三時ぐらいに見ました。

次の日とおっしゃったのは、出航した次の日という意味ですか。

そうです。

お酒を飲んでいた人数は、何人ぐらいでしたか。

はっきりは分からないんですが、私が見たところ、三〇人ぐらいでし

た。

それは、全員、浮島丸の乗組員の日本軍の兵隊ですか。

はい、そうです。そこで話を聞いたら、その人たちが船員たちだということでした。

乗組員たちがお酒を飲みだす前に、何か上官から話をされていたというふうなことがありましたか。

はい。話をしていました。

だれが、だれに対して、どういうことを言っていたか分かりますか。

偉いさんが軍人たちに言っているところは見ましたが、何を話しているか、話していることは分かりませんでした。

その上官の話があつてから、お酒を飲みだしたんですね。

はい、そうです。

話をした偉い軍人さんは、お酒を飲むのに一緒に加わったんですか。

見えませんでした。

軍人さんたちがお酒を飲みだしてから、その後、陸地が見えてきましたね。

そのときは、まだ見えませんでした。

どれくらいたってから、陸地が見えてきましたか。

お酒を飲んだ後に、その軍人たちが自分たちの荷物と帳簿や紙とかを全部海に投げ捨てるのを見て、ちょっとおかしいなと思いました。

帳簿を海に投げ捨てたのは、お酒を飲みだしてすぐですか。

ちょっとたった後でした。お酒を飲んだ後に、韓国人の病人たちが甲板に寝ていたところを踏んで行ったりしていました。

ちょっと確認をしたいんですけれども、船が出航したのは、八月二二日ではないですか。

八月の二二日か二三日かははっきり覚えていないんですが。夜中に来て、乗ってくださいと言われましたので、はっきり覚えていません。一晚過ぎて、次の日に爆発しました。

船では二晩泊まったのではないですか。

私は一晚でした。私たちが一番最後に船に乗りました。

もう一度話を元に戻しますが、お酒を飲んでからしばらくして、兵隊たちが帳

簿書類を捨てていたということですから、捨てていたものは、書類以外に何かありましたか。

後、布団とかも、荷物とかもありました。

それを捨てていたということですか。

はい。

それから、陸地が見えてきたということはありますか。

はい。荷物を投げ捨てた後から、陸地が見えました。

陸地は、船の進行方向に向かって、右側、左側、どちら側に見えましたか。

左側です。

左側に見えた陸地は、日本だと思いましたが。韓国だと思いましたがか。

日本だと思いました。

進路から言って、左側に見えるのは日本の陸地のはずだからということですね。

はい、そうです。

日本の陸地が見えるということについては、おかしいとは思いませんでしたか。

思いました。

日本に近付いていることについて、だれかに理由を聞いたりしましたか。

日本語ができる人たちが、船員たちにどうしてか聞きました。

どうして日本の陸地に近付いているのか、その訳は聞きましたか。

聞きませんでした。

それから進路を陸地寄りに変えて、どんどんと陸地に近付いて行ったんですか。

はい。進みました。

それから何が起こりましたか。

すごい速いスピードで陸地に向かって行ったんですが、小さい山と山との間を走るときにゆっくりでした。

山と山の間というのは、港に入港するために、湾になっているところに入ってしまったということですか。

港に入る途中からゆっくりでした。

船がゆっくり進みだしてから、何か起きましたか。

そのときに、韓国の方が日本の人に、どうして韓国に行く船が日本の舞鶴港に入るんですかと聞きました。ある人から聞いたんですが、水

の補給のために舞鶴港に入りますということでした。

それから、浮島丸からボートが下ろされていく場面というのを見ていますか。

はい、見ました。

ボートが下ろされ始めたときというのは、船はどの辺りにいたんですか。

山と山との間で、舞鶴港に近付いていました。

船のスピードはどれくらい出ていましたか。

すごくゆっくりゆっくりでした。

止まっていたわけではないんですね。

止まっていたはいなかったんです。

あなたの見たボートですけども、これは、浮島丸に積んであるボートですか。

はい、そうです。

ボートには、何人くらいの人間が乗りましたか。

三人か四人ぐらいです。上から下のほうを向いていましたから、はっきり見えなかったんです。

あなたは、そのボートが下りて行く場面というのは、どこから見ていたんです

か。

甲板の一番真ん中のほうにいて、そこから船を下ろしているのを見ました。

真ん中というのは、船の、前、後ろ、真ん中と分けたところの、真ん中ですね。

はい、そうです。

甲板の、要するに、水面に近いほうの手すり越しに見ていたんじゃないんですか。

はい。甲板の手すりを持って、下のほうを見ました。

三人か四人ぐらいの人が乗っていたということですから、乗っていた人は日本人の軍人でしたか。

上からのぞいて見たら、帽子に金色のしるしが入っている人でした。

それは、要するに、軍隊の中でも位の高い、階級の上のほうの人が乗っていたということですか。

はい、そうです。

そのボートは、結局、水面に着いたんですか。

ボートを下ろしている途中で爆発しました。下まで下ろしているところは見えませんでした。

浮島丸から下ろされたボートは一艘だけですか。

周りにボートが一杯ありましたが、一艘だけでした。

爆発が起きたということですが、爆発は船のどの辺りで起きたか分かりませんか。

船の真ん中辺りでした。真ん中よりちょっとくらい前のほうだったかもしれません。

船の、上の甲板に近いほう、下の水面に近いほう、どちらで起きたか分かりませんか。

下だと思えます。最初の爆発では上は大丈夫だったみたいです。最初は、その爆発の後に日本の軍人たちが来て大丈夫と言って、一分もたないうちに真ん中が割れてきました。船が割れてきた途端に、下からの荷物が浮いてきました。

最初の爆発のときは大丈夫だったと言いましたけれども、爆発は何回かあった

んですか。

爆発は、一回目でもうびっくりして、次、何回あったか、自分も倒れていましたので、はっきり覚えていません。

爆発が起きたときは、大きな音がしたんですか。

はい。

爆発の音がして、しばらくしてから、船が真ん中で割れて、沈みだしたんですね。

船はまだ進んでいたのですが、半分に割れた船の後ろのほうは沈みかけて、船の前のほうはもうちょっと進んで、真ん中辺りは空いてしまいました。それで、自分は一番真ん中辺りにいたので、その空いたところに落ちました。一度おぼれていたんですが、どうしてか分からないんですが、上に浮いてきました。そのとき、服はもう全部脱ぎ捨てました。上に上がったときに、何かをつかもうとしてつかまえたら、風呂敷でした。

あなたも、爆発だけがをしているんですね。

はい、そうです。

右足のすねのところですね。

はい、そうです。

それは、どうしてけがをしたんですか。

上から手すりを持って見ている途中に船が割れてきて、自分は倒れて、そこでどういふふうにけがをしたか、余り覚えていません。

あなたは、爆発が起きてすぐに、海に投げ出されてしまったんですね。

そうじゃないです。

しばらく時間があるということですか。

船の真ん中辺りにいましたので、時間がちょっとたった後、滑って落ちました。

海に落ちて、周りで助けを求めている人や、おぼれている人はたくさんいましたか。

自分もびっくりして、はっきり覚えていないんですが、下をちょっとちらっと見たときには、もう人が一杯で、アリさんが一杯いるみたい

でした。

助けを求める声や、泣き叫ぶ声なんかも聞こえていたんですか。

最初は聞こえたんですけれども、自分もおぼれたので、そういう声も聞こえなかったんです。後は、そういうことももう分かりませんでした。自分がおぼれたとき、日本人の女性の小さな救助ボートが来て、それに乗りました。

海に落ちておぼれた人が、それぞれ、人につかまったり、それを振り落とそうとしたり、そういう光景があったんですか。

はい、ありました。

あなた自身も、だれかに海の中に引きずり込まれそうになったりしたんですか。足を引かれて、水の中のほうに行きました。海に落ちて、上に上がったときは、もう油で何も見えなかったんです。

あなたを助けに来たのは小さな船に乗った女性だったということですか、これは民間の人ですね。

はい。民間の人でした。その船は、荷物を積む船でした。

それであなたはなんとか助かって、その後、しばらくは舞鶴で生活していたんですね。

自分は、助かって上に来たときは、もう服も着てなくて、お金もなくて。そのときに隣とかを見たら、もう、女の人の叫び声や泣き声ばかりでした。海から救助された人の中でも、外で冷たいお水を飲んでおなかが痛くて死んだ人も一杯でした。救助されて死んだ人も一杯いました。

救助されてからは、しばらくは舞鶴の軍属が使っていた施設で生活していたんですね。

そこには昔は人がいたんですが、そのときはだれもいなくて、空いていました。

食べ物なんかはどうしたんですか。

三食は食べていませんでした。次は、大豆をゆでて八〇個ぐらいくれました。大豆を二日間食べました。

舞鶴から故郷に戻るまでの話を聞きますけれども、舞鶴からはどうやって帰っ

たんですか。

舞鶴には一五日か一八日間いました。そのときは、大湊からお米とかがちょっと送って来たので、それを食べていました。服は海に投げ出したので、そのとき舞鶴で海軍の服をもらいまして、着ました。服が一つもなかったんです。

舞鶴から、まず下関に移動しますね。

舞鶴から広島まで汽車で行って、後は、一日ぐらい歩いて、そこからまた汽車に乗って下関まで行きました。お金は一銭もなかったんですが、大湊で二〇円ずつぐらいもらって、汽車に乗りました。

広島で汽車が止まっていたのは、原子爆弾で線路が切れていたからです。

はい、そうです。

下関からは、船に乗って釜山に帰ったんです。

最初はお金がなくて船に乗れませんでした。それで、そこで石炭を積む仕事をして、二日間いました。そこには軍隊のお米とかが一杯ありまして、それを取って、自分らで作って食べました。

石炭積みの仕事をして、船に乗せてもらったということですね。

はい、そうです。

故郷に戻ったときの気持ちはどうでしたか。

最初はもう、そういううれしいとかいう気持ちもなかったんです。家の人は、自分らをつかまえて泣いたりしたんですが、自分はぼうっとしていました。

故郷に戻ってからの生活は、大変なところがありましたか。

はい。たくさんありました。

例えば、どういうところが大変でしたか。

最初に帰ったときはお金が一銭もなくて、家にいる奥さんは子供がいのために農業もできませんでしたので、すごく大変でした。

浮島丸のことについてももう少し聞きますけれども、浮島丸に乗船していて、爆発によって助かった人はどれくらい分かかりますか。

自分はもうみんな死んだと思いました。それで、後から聞いた話ですが、五〇〇人生きていると聞いたんですが、またその後から聞いた話

では、一〇〇〇人くらい生きていますということですか。

最初は五〇〇人くらいが助かったんじゃないかという話で、後から一〇〇〇人くらいだったということですか。

私たちは、ただそこに座っていて、人のうわさだけ聞いていましたので、よく分かりません。

一〇〇〇人くらい助かったんじゃないかという話は、だれかから聞いた話ですか。

いろいろな人から聞いたので、指名はできません。

あなた自身は、浮島丸が爆発した原因については、どう思っていますか。

私が思うには、日本が自爆的に私たちを殺そうとしていたと思います。私たちがそんなに日本で仕事をしてあげたりしたのに、普通だったら、安全に韓国に帰してくれたほうがいいと思います。どうしてこんなことになったのかと、今まで心に残っています。

まず、あなた自身は自爆させたんじゃないかと考えているということですか。でも、そう考える訳は何がありますか。

爆発するまでは韓国に無事に送ってくれると思いましたが、爆発した後には、もう、私たちを乗せたのは爆発させるためだったと思います。爆発前の、荷物とかを捨てるのと、お酒を飲んで、自分たちの民族の人を踏んだりするのは、そういうことしか考えられません。

浮島丸に乗るときから、乗組員の人たちが韓国のほうに向かわない積もりだったというような話を聞いたことはあるんですか。

それはないです。

自爆だと思ふ理由は、お酒をのんでいたこと、それから、書類を捨てたこと、そういう場面を目撃したということですね。

私を感じたのは、布団とかを捨てたときと、お酒を飲んで、韓国人たちを踏んだりしたときから、おかしいと思いました。

ボートを下ろそうとした偉い兵隊さんたちがいたことも、その理由の一つですか。

下の人たちのことは考えなくて、自分たちだけ生きていこうとするところが、そう思いました。

浮島丸と一緒に乗船して亡くなった韓国人たちに対しては、どう思っていますか。

かわいそうだと思います。それは、私たちは生きていて子孫を持ち、今まで生きていますので。そのとき亡くなった人の中には、子供のいない人もいましたが、子供がいる人は、その子供たちは二歳、三歳だったので、すごい大変だったと思います。そういう人のためにも、日本政府は、眞実をはっきりさせて、いい結果を出してほしいと思います。

今おっしゃったことにも関係するんですけれども、あなたが原告になってこの裁判を起こした気持ちというのは、どういう気持ちからですか。

亡くなった人たちのことも考えて。自分も、どうしてこういうことになったのかははっきりした後、大湊のほうにも行ってみたいと思います。行っても、何にも結果が出ていませんので、何にも分らないと思います。自分たちの名簿があると思いますが、今の日本政府はないと言っています。自分が所属していた一三分隊に行ったら自分の名簿があ

ると思いますが、ないと言われています。軍部の偉い軍人さんは、下の人たちがそれを全部なくしたからないと言っています。それは、私が思うには、あるのにはないと言っているのかなと思います。

あなた自身、一三分隊の名簿を捜しに行ったことがあるんですか。

七年前に、一回、行きました。

どこに行っただんですか。

韓国の新聞記者である金さんという人と日本の記者と一緒に行きました。私が行ったところは全部行っただんですが、はっきりはしていません。

はっきり覚えていないということですか。

私が行って、自分が掘った工場とかを全部確認して来ましたが、そこにいる人は、そういうことはなかったと言っています。

今のはどういう意味ですか。

現場に行って、自分が仕事をしてきた仕事場とかを確認して来たのに、それも、そういうことはないと言っています。

そういうことというのは、どういうことですか。

私が行ったのは、自分が仕事をしていたところに行っただんですが、その場所はあったんですが、今はもう変わっていて、あんまり分からなかったです。

最後に、裁判所に対して、あなたの言いたいことをおっしゃってください。

私たちが日本で苦勞したこととか、私たちが日本から帰るときにお金を一銭も持って帰れなかったこととか、その真実をはっきりしてほし
いです。

ちなみに、あなたは、今、お幾つですか。

八一歳です。一〇〇歳まで生きます。はっきりしないことには死ねません。

この裁判の結果を見るまでは、死んでも死に切れないということですか。

はい、そうです。

原告ら代理人（武田）

あなたが浮島丸に乗るときですけれども、あなたは、まず菊池棧橋のところに

来たわけですね。

夜中だったので、どこがどこか分かりませんでした。

浮島丸に乗り込むときは、何か、はしけ、小さな船で棧橋から出て乗り込んだという記憶ですか。

はい、そうです。

あなたは、浮島丸に乗ってから、一家族降りた人がいたというふうにおっしゃいましたね。

はい、そうです。

その人たちは、どうやって浮島丸を降りたんですか。

はっきり覚えていないんですが、その家族は降りまして、私たちも降りようとしたんですが、一〇〇人ぐらいは大丈夫だからと言って、降りしてくれなかったんです。

その人たちが、また同じようにはしけを使って降りて行ったのか、それとも、海に飛び込んで降りたのか、そこら辺は分かりますか。

その家族は小さい船に乗ったんですが、方向は、陸地のほうに向かっ

たか、沖のほうに向かったかとははっきり分かりません。

そうすると、その家族というのは、浮島丸には乗り込んではいないわけですね。乗っています。乗って、小さい船で降りたんです。浮島丸に乗って、その後、降りるときには小さい船のほうに移っています。

小さい船に乗って降りたということですか。

その人たちが降りるのを見て、私たちも降りようとしたんですが、できませんでした。

その降りた家族の人たちは、日本の乗組員から降りてはいけないというふうに止められるということではなかったんですか。

その人たちにはしていませんでした。降りるのを止めなかったんです。ちなみに、船に乗るときのはしけというのは、だれが漕いで行ったんですか。

人が漕いだんじゃないくて、エンジンがある船でした。その船が浮島丸のほうに近付いたら、はしごが下りてきて、そこから降りました。

運転していたのは、日本の軍人ですか。

はい。海軍でした。

裁判長

反対尋問はありますか。

被告指定代理人（岸）

ございません。

裁判官（田邊）

舞鶴に行く前に、韓国の人たちの間で、この船は爆破されるんじゃないかとか、釜山には向かわない積もりだとか、そういううわさ話はあったんでしょうか。

なかったです。：：：私を一〇〇歳まで生きさせられるか、一日でも早く判決を出してほしいということです。お願いします。

（以上 南 朱 美）

京都地方裁判所第一民事部

裁判所速記官

中 島 け

裁判所速記官

南 朱 美